

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康推進課			2 ◎			2	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	健康推進課			2 ◎			2	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	課内連携：高齢者支援班と健康づくり班	予算上は介護保険事業になるが、活動は健康づくり班で行った。高齢者班と健康づくり班との連携強化が課題。	モデル地区の活動を小まめに、報告、体験して貰いながら事業に巻き込んで行く。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	課内事務職、モデル地区担当保健師、町立病院リハ職	開始当初の「いきいき百歳体操」の正しい動きを、個々がいかに習得できるかで、効果が左右される。	H27年度、新規を5カ所拡大する予定であり、町立病院リハ職との日程調整及「いきいき百歳体操」の指導を再確認をする。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

検討作成中であるが、モデル事業で実施している「住民運営の通い場」をH27年度からH29年度で16か所に拡大する予定。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

<input checked="" type="checkbox"/> 地域診断	<input checked="" type="checkbox"/> 戦略策定	<input checked="" type="checkbox"/> 関係者への働きかけ	
<input checked="" type="checkbox"/> 住民に対するアプローチ	<input checked="" type="checkbox"/> 通いの場の立ち上げ	<input checked="" type="checkbox"/> 通いの場を支える体制の構築	
		その他 <input type="checkbox"/>	

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		三戸町全体の地区診断として ①既存データの整理、②地域資源の整理（人・組織）③地域資源の整理（場所・移動手段）④行政課題の整理を実施。分かる範囲内でまとめて見ること町の中にも、いろいろ資源等がある事に気づかされた。	今後も、活動の拡大を図るにあたり、地域の住民の方に、情報を提供していく。現状を説明することが効果的であったので今後もこの手法を活用予定。		
戦略策定		県の企画した研修会に加え、上記の地区診断と町のモデル地区実践計画を元に、広域アドバイザー、密着アドバイザー、県担当者間で意見交換の時間を頂き、具体的な指導が受けられることができ、即、町のモデル地区への説明会に生かすことができた。	H26年度のスキルを元に新規拡大の戦略に生かして行きたい。		
関係者への働きかけ	<p>《誰にどのような働きかけをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター リハビリテーション関連団体 社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO 社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、老人クラブ役員等：いきいき百歳体操のリーダーさんになって貰うように働きかけた。 町立病院リハビリ職員：「いきいき百歳体操のリーダー養成講座の講師および、モデル地区通いの場の出張による個別・集団の指導を行った。 課内スタッフや保健師：いきいき百歳体操を1ヶ月ほど週1回体験して貰った。 	新規5地区もH26年度と同様な活動展開する。H26年度実施地区は、自主運営の継続に向けて支援する。		
住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会・講演会等 出前講座 周知・広報 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地区の説明会では、体操のメリットとしてこんなに元気になる動画を活用し、自分たちもこんな風になりたい、やってみたい気持ちを引きましたことで、町のモデル地区の立ち上げができた。 周知は、リーダーがクラブ全員へのチラシを作成し配布したり、参加者の人が近所の人を誘い合い少しずつ人数が増えている。 地区担当保健師が独居高齢者や二次予防対象者を訪問し、周知をした。 	新規5地区についてもH26年度と同様の活動展開とする。H26年度実施地区は、自主運営の継続に向けて支援する。		

通いの場の立ち上げ、充実	≪どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか≫ ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	モデル地区の立ち上げ支援 ・関わった職種：地区担当保健師・事業担当保健師、町立病院PT ・支援内容：いきいきリーダー養成講座の実施 いきいき百歳体操をリーダーが主体的に実施できる様に支援。 ・支援回数：2ヶ月は保健師2人とPTが週1回。3ヶ月から保健師2人週1回、PTは月1回。4ヶ月は保健師週1回、PT月1回。5ヶ月からは、保健師・PT共に月1回。	新規の立ち上げには、地区担当保健師、事業担当保健師とペアで関わるようにする。 支援回数は、2ヶ月を目標に自主運営にもってように、リーダーの養成に力を入れていきたい。		
	≪通いの場の実施状況≫ ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	・1カ所（元木平地区） ・参加者実人数32人 ・いきいき百歳体操（毎週） その他：町内の健康教室と合同実施1回、町内会の避難訓練1回、ミニクリスマス会で交流。	継続地区の元木平地区の活動の充実を支援する。		
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	・会場準備と後片付けは、参加者全員で行う。 ・モデル地区町内会のみでリーダー養成講座（2日間）を実施。 ・評価方法：体力測定と写真・動画で動きや、表情の変化を見る。アンケート調査実施	・リーダーの養成に役割について、理解と実行ができるように支援をする。養成講座は、3日間にする。 ・評価方法：体力測定の内容について、全国的同行を見ながら検討していく。		
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他	H26年度重り、燃料費は、介護予防事業を流用し確保。	H27年度の新規5か所とモデル地区活動の予算を確保。		

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

職員は、住民のやる気を引き出すノウハウ伺い、住民を信じて待つことの重要性を痛感した。住民は、自分たちがやってみて良いことであれば、人に言われ無くても「こんなに良い」ことを伝えて、人とつながり力を発揮することができること気づかされました。地区の人の声としては、身体が元気になったと言う声が多かった。皆にあって話ができる、楽しいと言う声もありました。立ち上げてまだ、4ヶ月あまりですが、住民皆さんの笑顔を見ることが、楽しみになっています。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	通いの場の活動を報告や、広報・新聞掲載等機会を捉え普及・啓発を行い、通い場の拡大を図り、通いの場同志の交流会や情報交換を行い、一緒に楽しむ輪を広げることが今後の課題と思う。町→県→全国					
住民主体のネットワークの形成	「住民運営の通いの場」については、住民がやってみたい、楽しいを引きだし、地域に地区組織と繋がり、出番をつくり生きがいづくりにつなげることが今後課題と思われる。					
介護予防事業の評価	体力測定では、数値上の効果数値が、でなかったが、参加者の体の動きの変化や主観的な変化も重要と感じた。 (楽しい、やってみたいの気持ちの変化など)					
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	計
介護 予防 事業	健康づくり課	二次予防事業・一次予防事業（健康教育・相談等）			2	1	3
	長寿福祉課	一次予防事業（普及啓発）				1	1
							0
							0
モ デ ル 事 業	長寿福祉課	モデル事業実施団体の拡大		2		1	3
	健康づくり課	体操指導			2		2
							0
							0

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくり課（保健センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 主担当課である長寿福祉課では、スタッフが不足しているため、通いの場の実施が困難である。 健康づくり課では、既存の介護予防事業の実施のため通いの場の実施箇所数が増えた場合の対応が困難である。 動機づけのための講演を行う職員の数不足しており、同日に複数の依頼を受けることができない。 体力測定時のスタッフ数が不足する場合がある。 住民への対応を行う窓口が二つあり、連絡調整に労を要す。 	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場実施のための、臨時職員を長寿福祉課へ配置する。 包括支援センター職員にも動機づけの講話ができるよう、協力を依頼する。 体力測定および評価について、いわてリハビリセンターへの協力依頼を検討する。 通いの場に関わるスタッフ数の増員

職種 連携	・事務職、保健師、リハ職 ・その他	・保健師、理学療法士、作業療法士、事務職	(上記を含む)	(上記を含む)
----------	----------------------	----------------------	---------	---------

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

通いの場実施箇所数目標値：

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域 診断		・ワークシートⅠ 地域診断のとおり ・その他：モデル事業実施地域について、モデル地区の民生委員、保健推進委員等から地域の現状について調査。	・コミュニティ単位（小学校区程度の地域）で、介護予防事業の要望や地域住民による団体（老人クラブ、サロン等）の現状等を調査する。	◎	
戦略 策定		・ワークシートⅡ 戦略策定のとおり	同左		
関係者へ の働きか け	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	・健康福祉部長、長寿福祉課長、健康づくり課長→広域アドバイザーによる通いの場事業についての説明会 ・包括支援センター→通いの場事業への協力依頼 ・社会福祉協議会→サロンリーダー研修会の共催によるモデル事業講演会の実施 ・民生委員協議会→モデル事業講演会への参加依頼	・いわてリハビリセンターへの協力依頼 ・地域包括支援センターとの連携（脱落者のフォロー、通いの場事業のPR） ・サロン、老人クラブ代表者等への通いの場事業のPR	○	

住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域アドバイザーによるモデル事業講演会の実施、対象：モデル地区住民、サロンリーダー、民生委員 ・モデル地区へは、チラシ回覧による周知 ・住民団体の依頼による健康教育の場での通いの場事業のPR ・モデル地区での教室実施状況を新聞掲載（数か所の団体から問い合わせあり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ単位で開催する6期計画の説明会に合わせて、通いの場事業の周知 ・老人クラブ大会等の場での、講演会の開催 ・サロンリーダー研修会でのモデル事業実施地区の成果発表 ・出前講座による周知 ・新聞、広報等によるPR 	◎	
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ：保健師、PT、OT、歯科衛生士、包括職員 ・その他：元気でまっせ体操を印刷した用紙を挟んだファイル・DVDのプレゼント、名簿の作成および連絡網用名簿の配布、血圧計の貸し出し ◎新規1か所：モデル地区 <ul style="list-style-type: none"> ・開催前の支援：モデル地区の保健推進委員、民生委員等へ事業内容を説明し、参加者の募集、会場予約等を自主的に行っていた。 ・モデル事業講演会に参加いただき、その場で、モデル地区住民の皆さんで通いの場事業の実施について、および参加希望を話し合っていた。 ・導入支援3回：①動機づけの講演、体力測定、グループ作り ②元気でまっせ体操の指導、目標設定、グループ名・代表者決定の支援 ③DVDによる元気でまっせ体操、共通ルールの設定 ◎既存サロン 2か所（3月実施予定） <ul style="list-style-type: none"> ・導入支援2回：①元気でまっせ体操指導 ②体力測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入支援3回を基本に、申し込みのあった住民団体のレベルによって支援回数および内容を柔軟に対応したい。 	◎	
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か所（10回コース実施後、週1回ペースで住民主体で継続中） ・初回29人（以降、平均20人参加） ・大東元気でまっせ体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、申し込みのあった住民団体に対して対応するほか、市内27か所の各コミュニティ単位（小学校区程度）で1か所以上元気でまっせ体操が実施できるよう支援していく。 	○	
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大東元気でまっせ体操」DVDの配布 ・記録用ファイルを全員にプレゼント ・血圧計貸出 ・立ち上げ支援：3回、市保健師およびりハ職による運動方法の指導、自主グループとして実施するための援助を行う。 ・体力測定：2回（初回・終回）、身長・体重・握力・足指握力・TUG・5m歩行・長坐位体前屈・片脚立位時間 ・基本チェックリスト、主観的健康観の実施 ・名簿管理：長寿福祉課、健康づくり課、グループ代表者 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記に加えて、継続支援として体力測定を半年に1回実施。合わせて、口腔体操や低栄養等の健康教育を実施予定。 ・サロンリーダー研修会等で成果の発表の場を設ける。 		

その他	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> サロン代表者、民生委員等に働きかけ、既存のサロンや一人暮らし交流会等の内容の充実化 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ協議会に働きかけ、市内全域に事業を拡大していく。 引き続き、サロン・老人クラブ等に働きかけ、実施団体を増やす。 一次予防事業の委託事業を整理し、通いの場の体力測定事業委託等の予算に充てていきたい。 	○	
-----	--	---	--	---	--

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- 二次予防事業対象者のうち介護予防事業へ参加するものの割合が少ないこと、また高齢者のうち基本チェックリストの実施割合が低いことを、行政主体の教室を実施することや、訪問活動を増やしていくことで解決しようとしていたが、住民が自ら介護予防に質する活動を実施するための動機づけや支援をすることに力を注ぐということへの意識転換は大きなパラダイムシフトであった。
- 今回モデルとなった地区は、もともと住民の力のある地区であるがゆえに、リーダー的存在がいないと会の実施は無理ではないかという思いがあったが、グループを作り全員が運営を当番制で実施することを住民同士の話し合いで決めることができた。
- 行政から毎回指導者が来てくれることを期待していたようだが、今では自分たちでやるという意識が芽生え、参加者が積極的に体操を増やしたら、仲間を誘ってきたりと意識が芽生えている。
- 高齢化率と介護保険料の仕組みについて説明すると、値上がりしていくことについて住民の理解が得られるようになった。さらに住民自らの力で、健康を維持しようという気持ちを持つ方が多くなった。
- 今まで、行政がサービスを提供するばかりで、目的や現状をきちんと住民に伝えるように説明してこなかったのだということを実感した。
- 参加者からは、歩行が楽になった、体が軽くなったなど、体操による効果のほか、週1回みんなの笑顔に会えることが楽しみとなっているという声がきかれた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・広報等メディアを利用した事業の周知 ・コミュニティ単位に開催される6期計画の説明会に合わせた、介護予防の必要性および通いの場事業の周知 ・サロンリーダー研修会、老人クラブ大会、民生委員協議会等を利用した既存の住民団体への普及啓発 	◎	H27年度	長寿福祉課 包括支援センター	動機づけの説明や講演会を実施するスタッフを増やす
住民主体のネットワークの形成	リーダー養成の必要性は感じるが、事業として具体化していない	・通いの場実施団体の活動発表会、交流会等の実施	◎	H27年度 秋以降	長寿福祉課	
介護予防事業の評価	体力測定で事業の効果判定は行っているが、介護認定率の変化や医療費の変化については検証していない		◎			
その他	現在、少ないスタッフ体制での実施であり、スピード感のある事業拡大が難しい状況である。 データベース管理の事務量が多い。	・事業推進のための人員体制整備	◎	H27	長寿福祉課	

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業 報告シート	
--------------------------------------	--

都道府県名 モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予 防 事 業	二戸市健康福祉部健康推進課		1	7		1	9	←主担当に◎を選択してください。
	社会福祉法人 麗沢会 湯の里にのへ	委託先	1		7		8	
	一般社団法人 東北音楽療法推進プロジェクト えころん	委託先				2	2	
	歯科医師・歯科衛生士	講師				2	2	
モ デ ル 事 業	二戸市健康福祉部健康推進課			7			7	←主担当に◎を選択してください。
				◎			0	
							0	
							0	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連 携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉課や社会福祉協議会、包括支援センターと、地区の現状や各関係機関の活動状況などの情報収集を行い、現状について話し合い、情報を整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> 他課を通じて得られる情報等があるため、今後も福祉課や社会福祉協議会、包括支援センターとの話し合いを持ちながら情報を収集し整理していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉課や社会福祉協議会、包括支援センターと健康推進課職員が、それぞれ把握している地域の特性などの情報共有をし、協力を仰ぎながら自主的集まりの場の立ち上げをする。

<p>職種連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職、保健師、リハ職 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区担当保健師が、担当地区の地区診断をし、地区の保健委員と連絡を取り、実情を把握した。その情報を持ち寄り、どの地区にどうアプローチしていくか話し合った。また、保健師間では、講師を呼び、地域住民が自主的に活動を広げられる方法の勉強会を開催し知識の習得をした。 ・リハ職は、社会福祉法人 麗沢会 湯の里にのへ委託で依頼し、協力体制がある。事業についても相談しながら実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ職は社会福祉法人 麗沢会 湯の里にのへ委託で依頼し、協力体制がある。二戸市いきいき運動サポーターの養成講座や、運動器の機能向上のためのプログラム、年代別運動器機能向上のための教室、介護予防二次予防通所介護の教室等を協力を得ながら開催している。今後も教室のあり方等、相談しながら事業を展開していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師間では、地区分析等を行いながら、地区での話し合いをもち、自主的集まりの場の立ち上げを行って行く。現在立ち上げている地区に関しては、今後も継続していけるよう、支援していく。 ・また、いきいき運動サポーターや傾聴ボランティアなど今後も養成をし、地域に向いて簡単な体操や話を聞くなどの活動できるように支援していく。
-------------	--	---	--	---

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

予防給付（訪問介護・通所介護）を地域支援事業に移行し、新たな介護予防・日常生活支援事業として平成29年4月から実施できるよう取り組む。また、成年後見人制度を推進するための支援を行う。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> ・二戸市の高齢者人口や高齢化率、健康寿命等のほかに、人や組織、場所等の地域資源の整理や行政課題等の整理をした。その際、地区担当保健師が、保健委員には地域の現状等を、その他の関係団体からは、活動状況等を聞き取りした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口や高齢者人口、高齢化率や、地域資源の整理をし、保健委員等からも情報収集しながら、地域の特性等分析し、自主的集まりの場をつくっていく。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・地区診断をしながら地域の特性を生かし、事業の展開をしていく必要がある。
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> ・地区診断をもとに、地域の実情や介護予防の必要性などの情報をまとめ、地区担当保健師が、保健委員等に話をし、自主的に集まれる場所や回数、周知の方法等の相談をした。実施することになった2地区(浄法寺地区、御返地地区)と、地域のリーダーと話し合いをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員等からの情報を整理しながら地区分析し、必要性や集まる場所など地域の人と話し合っていく。研修会などを利用し、平成26年度の取り組みも住民にお知らせしながら、自主的集まりの場の必要性を地区組織や住民等に説明し、働きかける。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のやりたいと思う気持ちを大切に、地域の実情に合わせた、住民主体の自主的集まりの場の仕組み作りを検討していく必要がある。

<p>関係者への働きかけ</p>	<p>《誰にどのような働きかけをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区担当保健師が保健委員等に声かけをし、自主的集まりの場の必要性を話し、立ち上げを呼びかけた。 ・二戸市いきいき運動サポーターの養成の他に、地区で運動を働きかけられるような研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員や傾聴ボランティア、二戸市いきいき運動サポーター、民生委員、二戸市社会福祉協議会など、リーダー的役割を担う人及び関係機関に、研修会や定例会など集まりのある際に、自主的集まりの場の必要性を周知し、地区の実情に合わせながら実施していく。また、自分たちでも運営できるという意識を持ってもらう。 	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員には住民への周知、二戸市いきいき運動サポーターは運営の際の体操指導、傾聴ボランティアは運営際の話し相手など、具体的な協力を仰ぎ、関係団体が協力して行う必要がある。
<p>住民に対するアプローチ</p>	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・浄法寺地区は、広報や手作りポスターを使い、立ち上げの代表者が住民へ周知した。 ・御返地地区は、運動機能・生活機能の維持向上や運動習慣の定着を図ることを目的とした作業療法士による運動器機能向上のためのプログラムを定期的に3回行ったことが、住民の意識変容につながり、通いの場をつくることができた。 ・介護予防の講演会を開催し、住民運営の通いの場の必要性を周知した。その後、地域住民と講師との交流会を開催し、具体的にどうすれば集まりの場が作れるかなど話し合った。 ・保健委員地区理事会や、保健委員研修会時にも必要性を周知をし、保健師や地区の保健委員同士で話し合いをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区で、健康教室や健康相談等の集まりのあった時や、保健委員、民生委員等の研修会を通して、平成26年度に行った浄法寺地区や御返地地区の活動も紹介しながら、地区住民へも自主的集まりの場の必要性を周知し、一緒に立ち上げていく。 	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民運営の通いの場を行っている地域の紹介をし、その必要性が口コミで伝わるような活動の紹介をする必要がある。 ・住民運営の通いの場の必要性を周知していく際、どのような方法で周知すれば、住民も自主的に動けるか、地域の特性に合わせながら伝え方の検討をする必要がある。
<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・浄法寺地区は、以前より自主的集まりの場の必要性を感じていた有志の人たちと職員が話し合い、場所の確保や開始日、活動内容等を決めた。 ・御返地地区は、運動機能・生活機能の維持向上や運動習慣の定着を図ることを目的とした作業療法士による運動器機能向上のためのプログラムを定期的に3回行ったことが、住民の意識改革となり、通いの場をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師が、保健委員等の研修会で必要性を話し、通いの場を希望したところを優先的に立ち上げる。また、保健師が地域等に出向いた際に、自主的運営の場の必要性を周知し、地域の実情を把握しながら保健委員等と話し合いをし、具体的に日時、場所等検討していく。 	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民運営の通いの場を立ち上げる際、住民のやりたいという気持ちを引き出せるような動機づけをしていく必要がある。
<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ol style="list-style-type: none"> 1 通いの場の箇所 2か所(浄法寺地区、御返地地区) 2 参加者数 (1) 浄法寺地区：平均 10人 (2) 御返地地区：平均 16人 3 内容 (1) 浄法寺地区：「よってがんせ」という名称で実施。 お茶など飲みながら話ができる場。保健師による健康チェックをし、簡単な体操をする。小学生から高齢の方まで参加し、時には昔話に花が咲くこともある。 (2) 御返地地区：運動をしたいという人が集まっており、ストレッチやリズム体操などメインに行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員や民生委員と職員が話し合い、日時や場所、内容等の検討をする。3か月をめどとして保健師が定期的に支援する。 ・保健委員だけでなく民生委員等の関係団体、二戸市いきいき運動サポーターや傾聴ボランティアなどのボランティアを活用し、役割分担しながら自主的運営の場を立ち上げる。 	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に合わせながら日時、場所、内容等を決め、継続していくように声をかけていきたい。

通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> • 共通ルールの設定 • リスク管理の方法 • サポーター・リーダー育成 • 評価方法 • その他 	<ul style="list-style-type: none"> • 保健委員や地区住民が、日時を決めて定期的に集まり、会場運営や準備等も自分たちで行っている。 • 二戸市いきいき運動サポーターの養成の他に、地区で運動を働きかけられるような研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自主的通いの場ができるまでは、地域の実情に合わせ、運動指導などの支援していく。 • 二戸市いきいき健康サポーターや傾聴ボランティアなど、地域の人が協力しながら場を運営できるよう支援していく。 	○	<ul style="list-style-type: none"> • 自主的通いの場ができるまでの支援として、行政主体とならないよう、住民のやる気を引き起こしながら、自主的運営の場ができるようサポートしていく必要がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 既存事業の活用・整理 • 予算の確保 • その他 			○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- 1 職員の意識の変化：事業を実施する上で、行政が主体的に行っていることが多かったが、今回地域主体の集まりの場を提案することで、自分たちにあった集まりやすい場所や日にち、時間、活動内容等を自主的に決めたり、物品を準備したり、周知も自分たちで行っていた。このモデル事業で、住民への声のかけ方を新たに学ぶとともに、住民の力を再認識できた。
- 2 住民の意識の変化：住民から、「集まりの場を作りたい」という声上がり、保健委員がそれにこたえ、定期的に集まりの場を作った。住民が自主的に準備や後始末など率先して行うようになった。
- 3 住民の声：自主的運営の場を立ち上げた方は、「今まで定期的に集まるのが少なかったため、立ち上げて良かった。今後も続けていきたい。」と話している。また、住民からは「定期的に集まりの場ができ、うれしい。」という声があった。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 容易に通える範囲に通いの場を住民主体で展開することの必要性や、体操などを定期的に行う必要性を継続して普及啓発していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報等での知識の普及や、二戸市いきいき運動サポーターが運動機能測定者に対し、体操を一緒に行う等の予防活動をしていく。 	◎	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> 保健師、いきいき運動サポーターが連携し、運動普及していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性を解りやすく周知していく、安全に留意しながら多くの方が運動習慣がつくよう周知していく必要がある。
住民主体のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員や民生委員等の関係団体や、二戸市いきいき運動サポーターや傾聴ボランティア等と話し合いながら自分たちの地域を支えるような仕組みづくりをつくる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民運営の通いの場の参加者に応じて安全に実施できるよう、リハ職等の専門家の助言をいただき、二戸市いきいき運動サポーターの養成をし、通いの場の立ち上げや継続支援の担い手となってもらおう。関係団体やボランティアと協力しながら、住民運営の通いの場を増やしていく。 	◎	毎年実施	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報共有をし、連絡調整をし、連携しながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者間で情報共有し、意識の統一を図っていく必要がある。
介護予防事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な集まりの場で、実施回数、人数、参加者の声等アンケートを行いながら、地域にあった活動ができるよう支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査を実施するとともに、運動器機能測定しながら、体操の効果などの変化を見ていき今後も継続して行いたいという気持ちを引き出す。また、紹介や口コミなどで、他地域にも普及していけるようにする。 	○	平成27年度		<ul style="list-style-type: none"> 住民に生活上の変化や体操の効果を実感してもらえるような評価をしていく必要がある。
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

宮城県

モデル市町村名 白石市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	
介護 予防 事業	健康推進課	一次予防事業		2 ◎			2
	地域包括支援センター	二次予防事業		1			1
							0
モ デ ル 事 業	地域包括支援センター			1 ◎			1
							0
							0
							0

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 長寿課、健康推進課と検討 	<ul style="list-style-type: none"> 他課との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 機構改革あり
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師 	<ul style="list-style-type: none"> リハ職との連携難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関との連携

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

平成27年4月から総合事業の実施。一般介護予防事業では、地区での通いの場としての運動教室の実施。協議体について各地区説明会をし、モデル地区で実施。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断

戦略策定

関係者への働きかけ

住民に対するアプローチ

通いの場の立ち上げ

通いの場を支える体制の構築

その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 第6期計画策定のためのアンケート調査 生活不活発病対策のための調査 			
戦略策定		第6期計画			
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター リハビリテーション関連団体 社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO 社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 県のモデル事業に手を挙げた 	<ul style="list-style-type: none"> 県モデル事業の継続 		
住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 説明会・講演会等 出前講座 周知・広報 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 広報による周知 二次予防教室を地区で開催した 	<ul style="list-style-type: none"> 広報による周知 		

<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地区健康増進（介護予防）教室開始応援事業の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 申請のあった団体について実施を検討し実施する。 		
<p>通いの場を支える体制の構築</p>	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場 3か所 1か所あたり 20人～30人 運動、筋トレ、ストレッチ、レクリエーション、脳トレ等 	<ul style="list-style-type: none"> 要綱の整備 	<ul style="list-style-type: none"> サポーター、リーダー養成 	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 				

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- 職員や自治会長、公民館などの意識が変わった。
- 地区住民からの自発的な声が出るようになった。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発		・地域へ普及啓発のための出前講座を開催する。	◎			
住民主体のネットワークの形成		・協議体との連携	○			
介護予防事業の評価		・開催場所、参加人数、体力の向上	○			
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 宮城県 モデル市町村名 名取市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉部介護長寿課		2	2 ◎			4	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	健康福祉部介護長寿課		1	2 ◎			3	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 介護予防主担当課以外の課 • 地域包括支援センター • その他 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括支援センター(委託)とのモデル事業の共通理解や目標共有のための話し合い。 	衛生部門(保健センター)より講師が派遣されている町内会等のサロンでは「今のままでいい」という声があがっているので今まで行政が支援を続けてきた会を自主化していくことが難しい。 「通いの場づくり」展開のため、町内会等にプレゼンに出向く職員が2名であるため、啓発活動の開催数に限りがある。	課内での事業共有、啓発のマンパワー確保、保健センターとの連携
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 事務職、保健師、リハ職 • その他 	<ul style="list-style-type: none"> • 庁内の保健師連絡会にてモデル事業の進捗状況や連携の必要性について理解を得る。 • 宮城県理学療法士会にご当地体操の作成を依頼する。また、来年度の介護予防事業の展開についてアドバイスをもらう。 	庁内に理学療法士がいないため、ご当地体操を啓発する際、外部の講師を依頼しなければならず、将来的に外部の理学療法士の状況によっては調整ができなくなる可能性が高い。	上記と同様

③第6期介護保険事業計画

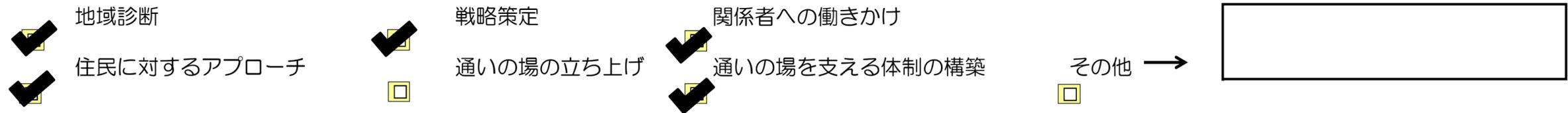
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

＜介護予防の推進＞地域における介護予防の取組の強化を図るためにご当地体操を地域に普及し、リハビリテーション専門職等から運動の取り入れ方や効果的な支援方法などの指導を受け、介護予防を推進していく。
 ＜日常生活を支援する体制の整備＞地域の関係機関・団体等と連携しながら生活支援等の社会資源を創出できるようにする。住民運営の「通いの場」を充実させ、住民の社会参加を促し、さらに高齢者の見守り、外出支援、家事支援等の生活支援サービスの創設を図り、人と人とのつながりを通じて、「通いの場」の参加者が増え、継続的に拡大していくような地域づくりを支援する。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		関係部門、地域包括支援センターからの聴き取り	・地域包括支援センターが普段より町内会等との連携、ネットワーク構築を行い、地域住民の情報収集、町内会等が抱える課題把握ができるよう行政が支援をする（地域の活動団体の把握、町内会への挨拶まわり、地域での介護予防活動等）。	◎	地域包括支援センターと地域の関係づくりについては行政側は側面的な支援を心掛ける。
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 課内での目標共有 地域で通いの場をつくる必要性や展開方法について地域包括支援センターと話し合い 県理学療法士会から協力をもらいご当地体操の作成 介護予防サポーターとの意見交換 	下記の「通いの場を支える体制の構築」と同様	◎	下記の「通いの場を支える体制の構築」と同様
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内の保健師連絡会にてモデル事業の進捗状況や連携の必要性について理解を得る。 ・宮城県理学療法士会にご当地体操の作成を依頼する。また、来年度の介護予防事業の展開についてアドバイスをもらう。 ・自治会へ「住民運営の通いの場」についてプレゼンをする。 	左記と同様	○	地域包括支援センターが講座の事前に運動実施者の理学療法士と連絡調整を図り、講座実施が計画的に行われるように支援する。

住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	・来年度9ヶ所展開する「通いの場づくり」立ち上げ支援事業の候補地区の町内会に対して地域包括支援センターと事業のプレゼンにまわった。	地域づくりで介護予防につながっている地区（モデル地区）を他の地域にも公開し、「自分たちにもできる」と気づいてもらえるようにする。また、地域診断の結果などで他の行政区と比べ自分たちの住む地域の課題はなんだ？と手がかりを見つけてもらうことも必要（例：転びやすい、うつ・閉じこもりが多い、老人クラブやイベントの参加率が低い等） 地域診断報告会・意見交換会、住民組織を巻き込んでの話し合い	◎	プレゼンをおこなう人員が固定していること（現在2名）機会を捉えてアプローチをするには現在の人数では足りない。もちろん地域包括支援センターもプレゼンできるように支援をするが……。
通いの場の立ち上げ、充実	≪どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか≫ ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	平成26年度はできなかった	・地域の健康課題や参加者のニーズの把握に努めること。その他、下記の「通いの場を支える体制の構築」と同様	◎	下記の「通いの場を支える体制の構築」と同様
通いの場の実施状況	≪通いの場の実施状況≫ ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	平成26年度はできなかった	<通いの場> 27年度は9ヶ所 各会場20名 ご当地体操、ストレッチ	◎	・28年度以降も9ヶ所以上の立ち上げを検討しているが、通いの場が拡大した場合の団体の把握やフォロー方法について準備が必要である。 ・立ち上げ時のマンパワー不足（職員等）
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	平成26年度はできなかった	・「通いの場づくり」立ち上げ支援（介護予防講座・立ち上げまでの6回講座） ・地域と密着した自主グループの展開が継続できるように開催会場については原則として集会所とする。講座終了後は週1回以上、自主開催できる団体を選定する（市内9ヶ所）地域包括支援センターが中心となって行うが、運動については市が派遣する理学療法士が実施する。 （2）6回講座には「通いの場」に介護予防サポーターを派遣する。終了後もできる限り派遣する （3）講座の参加申込みを受け付ける際、「承諾書および緊急時情報」により承諾を得て、その情報管理を地域包括支援センターが行う。 （4）立ち上がった団体に血圧計を渡して健康管理をしてもらう（測定方法については6回講座で指導） ・スタート応援事業・・・対象は既存団体とし3回まで理学療法士を派遣する。 ・「通いの場づくり」立ち上げ支援とスタート応援事業の双方に初回と年度内（3か月以上）1回の体力測定をおこなう。体力測定の際は理学療法士2名と地域包括支援センターの職員を派遣する	◎	・リスク管理の方法、評価方法については地域包括支援センターの主体性を奪わないように協議の上、進めていく。 ・共通ルールを関係者で共有できるようにする。 ・評価方法については体力測定だけでなく、アンケートによる評価もおこなう。盛り込む内容について理学療法士会からもアドバイスをもらう。 ・介護予防サポーターのマンパワー不足 ・特定の人に負担がかからないように状況の把握が必要

その他	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<p><既存事業>介護予防サポーター養成講座、スキルアップ講座 <予算>ご当地体操作成</p>	<p><予算>「通いの場づくり」立ち上げ支援事業委託費（地域包括支援センター） スタート応援事業 講師謝礼（理学療法士） 介護予防サポーター養成講座、スキルアップ講座 血圧計</p>	○	現段階ではなし
-----	--	--	---	---	---------

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

・広域アドバイザーの話を聞いて、一次予防事業、二次予防事業について、介護予防（介護保険料削減）にどれだけの効果があるのかの根拠、その効果を持続するために行政で予算を投入していくことが可能なのかなど検討しなければならないことを学んだ。介護予防のためには一次予防も二次予防も必要でありそれを行っていくことが当たり前になっていた今回の研修や意見交換は衝撃的であった。モデル事業はあくまでも介護予防の取組を継続するうえでの方法論であるが、地域の課題に合わせてどこの集団（誰）を最初にアプローチするか、戦略を綿密に組み立てなければならないと感じた。
 今回のモデル事業をきっかけに町内会の地域課題の把握が不十分と思い、今、地域包括支援センター職員と町内会長への挨拶回りと来年度事業のプレゼンをしている。地域包括支援センター職員の一部は町内会への挨拶回りや事業説明に戸惑いを感じている職員もいるが、町内会とつながる重要性や楽しさを感じている職員もいる。また、地域で「通いの場づくり」を『やりたい』という声に職員も元気づけられていると感じる。

II モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民連営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	住民の「やってもらう」⇒「自分のために取り組む」という自主性を持ってもらうことが必要である。	町内会や民生委員、地域のサロン等において積極的に啓発活動を行う。	◎	平成27年度～	地域包括支援センターが主体となって普及・啓発をおこなう	来年度の地域包括支援センター事業計画で検討中
住民主体のネットワークの形成	住民主体の通いの場で介護予防の取組だけでなく、「気づきあい・支え合い」を意識してもらい、主体的に考えてもらう仕組みづくりが必要である。	地域の見守りの必要性について地域での理解を深める（勉強会、地域ケア会議等） 地域から収集した情報や課題について地域ケア会議で共有する	○	平成27年度～	地域包括支援センター主体	現在、地域ケア会議の開催方法など来年度の地域包括支援センター事業計画で検討中
介護予防事業の評価	地域課題、介入方法などの検討も含めて事業の目標値を達成するための計画立案が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 「通いの場づくり」立ち上げ支援とスタート応援事業の双方に初回と年度内（事業実施3か月以降）1回の体力測定をおこなう。 参加者へのアンケート調査 地域住民へのアンケート調査 	○	平成27年度～	体力測定の際は理学療法士2名と地域包括支援センターの職員を評価対象団体に派遣する。	現段階ではなし
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターと町内会とのつながりが希薄な地域があり、地域の課題について情報不足である。 地域の情報⇒課題⇒介入方法を検討するための情報収集をおこない、上記の介護予防事業評価にもつなげる。 	地域包括支援センターの役割やどんな協力ができるかを町内会長への挨拶回りをしながら、地域の課題について情報収集を行う。	◎	平成27年度～	地域包括支援センター主体	難しい地域については行政が側面的支援を行う

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	介護サービス課			2 ◎			2	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モデル 事業	介護サービス課	住民への連絡、現地支援、報告等全般		1 ◎			1	←主担当に◎を選択してください。
	子育て支援課	体力測定、体操実施時の声掛け・見守り等現地支援		2			2	
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	連携先	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	・子育て支援課（保健センター）	・実施会場での体力測定、体操実施時の声掛けやみまもり等の現地支援協力 ・事業実施拡大予定地区への周知	・予定外の事業であったため地区担当の保健師への負担が大きかった。	・事業計画に取り入れ、連携体制の強化を図る
職種 連携	・保健師			

③第6期介護保険事業計画
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

計画の基本目標として、介護予防の推進については「高齢者がいつまでも元気で過ごせるよう、心身機能の維持・改善を図る介護予防を推進しよう」と、日常生活を支援する体制の整備等に関しては「高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、生活支援サービスの充実やよりよい生活環境づくりに取り組めます」と掲げている。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者人口、後期高齢者人口、将来推計人口、高齢化率、健康寿命、要介護認定者、新規認定者、認定率、第1号保険者あたりの保険給付費、第1号保険料月額、健診受診率、介護保険給付費、基本チェックリスト実施者、二次予防事業参加者 	<ul style="list-style-type: none"> データが新しくなる度に更新していく 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 他部署からのデータ収集
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 介護申請の要因を明らかにし、その予防に早期から取り組むことの将来をも見据えた利点について周知した。 行政としての関わりは動機づけ、体力測定、相談と明確にしたが、定期的な関わりをもつようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略のベースは変えずに、地域の特性に合わせた戦略を展開していく 	◎	
関係者への働きかけ	«誰にどのような働きかけをしたか» ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換を密にし、目標・戦略方法・課題の認識を統一するよう心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続していく 	○	<ul style="list-style-type: none"> 他職種の理解
住民に対するアプローチ	«住民にどのようなアプローチをしたか» ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 行動変容につながるよう、全国や他市の状況の他に、わが市の現状と課題について講演会や説明会で伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 依頼があれば動機づけを兼ねた説明会を実施する。依頼がない地域に対しては広報や健康教育時にアプローチしていく。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 理解度の格差

<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は広域アドバイザーが講演会で地域づくりやいきいき百歳体操について紹介（1回）し、その後保健師が、情報の再確認、わが市の状況について説明、体力測定（2回）を実施。必要時、電話で状況確認をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話、会場訪問で状況確認は必要 	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参加しなくなった方への支援
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場・・・2か所 参加者数・・・16名、10名 内容・・・いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操、茶話会、カレンダー作り等の工作、オリジナルの体操 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は2か所程度増やす予定 	<p>○</p>	
<p>通いの場を支える体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 行政の関わり方 評価方法 主館的健康感、握力、歩行速度、立ち上がり リーダー（連絡員）の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 継続していく 	<p>○</p>	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 			<p>○</p>	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

職員の意識の変化⇒自分自身の地域づくりに対する概念が、良い意味で根底から覆された。
 住民の意識の変化⇒行政に頼らず「自分の健康は自分で守る」ことの必要性を痛感し、通いの場を立ち上げた。行政ができないことを市民が実践しているということが自信につながり、グループ同士の交流が生まれるなど相乗効果もでている。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	・介護予防活動の必要性について、住民以前に職員の理解が薄い。	・広報やホームページ等で若い世代にも介護予防の必要性について普及・啓発していく。	◎	平成27年3月～	・地域包括支援センター	
住民主体のネットワークの形成	・現行の住民主体のネットワークについて情報の整理ができていない。	・情報を整理し、住民の方々の反応や状況を見ながら、焦らずじっくり形成していく。	◎	平成27年4月～	・地域包括支援センター ・子育て支援課	
介護予防事業の評価	・評価に必要なデータの取得	・介護予防事業の評価をし、既存事業の整理や来年度以降の事業の検討をする。	○	平成27年3月～	・地域包括支援センター	・多職種、他部署の理解
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	長寿支援課		1	4 ◎	1	5	11	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	長寿支援課		1	4 ◎	1	4	10	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター 市社会福祉協議会 	地域包括支援センターが実施したい方法や方向性が違ったようで、包括との連携が少々難しかった	歩いていけるような所で、週1回の体操は基本的にいきいき百歳体操を勧めていきたい
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事務職 作業療法士 	リハ職について他業務との調整もあり、モデル事業に関して日程や時間の調整が難しく、うまく活用されてない	他業務の実施時間を見直し、できるだけ必要な時に必要なところに出向き、支援できるようにしたい

③第6期介護保険事業計画

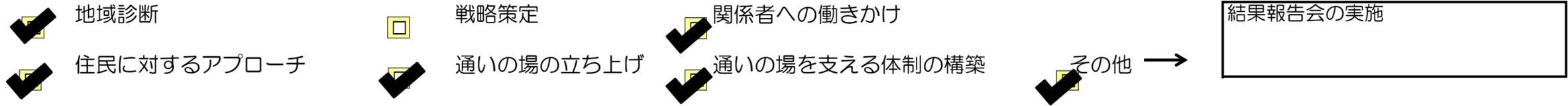
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

一般介護予防事業の充実を図るため、継続的に介護予防に取り組める環境整備を充実させます。地域においても自立支援に資する取組みを進めるため、リハビリテーション専門職等を有効に活用していきます。また、保健医療福祉関係団体、町内会や自治会等の地域組織等との連携を図りながら住民主体の介護予防活動の拡大を図ります。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		一次・二次予防参加者について地図にマーキングを行い、場所の選定等に活用した			
戦略策定					
関係者への働きかけ	<<誰にどのような働きかけをしたか>> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	地域包括支援センターにモデル事業として実施してみたいか調査	地域包括支援センターや市社会福祉協議会		住民への支援について一気に増えると通常業務との職員派遣や調整が困難になることも懸念される
住民に対するアプローチ	<<住民にどのようなアプローチをしたか>> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	説明会。住民によるちらしの手渡しと回覧板での周知。	・説明会 ・出前講座		上に同じ

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	・保健師が中心となり、8月から10月の3か月間、毎週職員が参加した。参加できるときは作業療法士もでかけ、参加者への声かけ、アドバイスを行った	・地域での介護予防の普及啓発と「いきいき百歳体操」の紹介・説明 ・リハビリ専門職や保健師による4回くらいの技術支援 ・希望があれば、体力測定の実施（開始時と3カ月後など） ・体操のDVDとおもりの無料貸し出し（1人4本まで） ・いき百以外でも週に1回集まって体操を行うところは同等とみなし支援を行う		住民への支援について一気が増えると通常業務との職員派遣や調整が困難になることも懸念される
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	・通いの場の箇所数：9か所（推定） ・参加者数：1か所30人前後 ・通いの場の開催頻度：週に1回、月に1～2回 ・通いの場で行われている内容：いきいき百歳体操、花の山形！しゃんしゃん（第2）体操、ロコモ体操、すんどこ節			
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	・モデル事業は3か月間 ・前後比較するために体力測定を行う ・体操実施にあたり体調の管理は各自の責任で行う ・参加票には緊急連絡先を記載してもらう			
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他	・体操時は1人か2人で支援に出向いている ・体力測定時は包括の職員からの協力も得られ、合計8人くらいで出向く			・重りの予算確保 ・評価の仕方 ・職員のマンパワー不足

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）
 効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

<p><住民の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力がないので、自分のことがわかって良かった ・参加してから日常生活が快調でスーパーでの買い物はカートも使わないようにしている ・自宅で一人でする運動するよりも、みんなで楽しみながらする運動はより効果があるようだ ・運動することに対し抵抗感がなくなり、時間があればフラッとウォーキングに出かけたりするようになった <p><職員の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果が実感できれば、住民はちょっとしたサポートで実施できることを切に感じた。 ・毎回決まった体操をし、終わればパッと解散することで、普段の（お茶のみ）サロンには参加していなかった方や男性も参加しやすい。（お茶のみや無駄なおしゃべりがないので、気疲れしない。仲の良い友人等がいなくても気軽に参加できる）
--

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・広報やチラシ配布 ・包括からの周知 		ちらしは主に4月・5月であるが通年で実施		
住民主体のネットワークの形成	介護予防教室の参加者はリピーターが多く、その中で顔なじみになっている	リピーターの方を地域でのリーダーにし、地域での通いの場を広げていきたい				
介護予防事業の評価	現在実施していない	参加者へのアンケートを実施				
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 山形県 モデル市町村名 米沢市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康課	一次予防事業		1 ◎			1	←主担当に◎を選択してください。
	高齢福祉課	二次予防事業		1		1	2	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	高齢福祉課			1 ◎		1	2	←主担当に◎を選択してください。
							0	
							0	
							0	

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防主担当課以外の課 ・地域包括支援センター ・その他 	委託地域包括支援センターの会場を借りて実施できないかを交渉中。		他課と連携強化を図る。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職、保健師、リハ職 ・その他 	定期的に行われている、保健師業務研究会（市の保健師が集まる勉強会）において、モデル事業の説明を行い、これから活動の報告会をする予定。	効果測定、評価については、リハ職との連携は必須であり、また、地区と関わりが強い健康課保健師と連携を図る必要がある。	リハ職、保健師と連携を図る。

③第6期介護保険事業計画
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

介護予防推進員の活動支援・養成⇒地域における既存の組織を活用するなどの工夫を行い、幅広い介護予防活動が定着するよう支援する。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	（視点の例）	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		高齢化率の高い地区を選定し、アウトリーチを実施。その中で、介護予防の取り組みに関する項目の聞き取りを行った。その後、小地域ケア会議において地区の課題を抽出し、地域の実情に合わせて支援を行った。	今後も、アウトリーチを実施し、住民の声を拾い上げ、地域の実情に合わせた支援を行う。	◎	個人的に実施したいと希望しても、町内会や民生委員を通さないと実施しにくいという声が多く聞かれる。
戦略策定					
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	委託先の地域包括支援センター、コミュニティセンター職員、民生委員に事業の説明を行った。	老人クラブ、社会福祉協議会など幅広く周知を行う。在宅福祉サービスのデイサービスやサロンに出向き、体験会を実施する。	◎	マンパワーの問題
住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	出前講座（ココロとカラダの元気UP講座、認知症サポーター養成講座）で体験版を行った。	引き続き、出前講座で体験版を行う予定。その他、介護予防推進員や食生活改善協議会メンバーを対象にアプローチする。	○	マンパワーの問題

通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<p>準備が整うまでの間、6回支援を行ったが、途中から3回支援に切り替えた。内容は、いきいき100歳体操の効果の説明後、楽しい音楽で体を動かし、ラップ芯を用いてマッサージを行った。運動だけではなく、管理栄養士による低栄養の講話やお口のケア、認知症予防などの内容を取り入れた。</p>	<p>今後も、運動だけではなく、介護予防全般に関する内容と取り入れる。</p>		
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<p>1か所(月1回) 登録者数は25名だが、毎回参加者数は5~6名。 参加者のほとんどが男性。内容は、いきいき100歳体操、花の山形!しゃんしゃん体操、ラップ芯マッサージを行っている。また、体操後麻雀をして楽しんでいる。</p>	<p>通いの場の実施箇所数を増やす。</p>		
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 支援3回の中で体力測定を実施し、結果表を渡している。結果表には、どの項目が優れていないかが一目で分かるようにグラフで表し、目標を持って取り組んでもらうように声かけを行った。 緊急時の対応について 	<p>事業を展開しながら体制の整備を行う。</p>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<p>負荷については、おもりを出来なかったのでペットボトルを用いた。</p>	<p>検討中</p>		<p>予算化が難しい。</p>

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

職員の意識の変化：始めは、行政が深く関わることで通いの場を立ち上げることが出来るという考えが強く、行政が主体とならないように取り組むことや住民に選択させることについては、抵抗を感じたが、取り組む中で職員の意識が変わり、住民に選択させることが継続につながることを実感できた。また、公民館にはDVDやTV等の機器類がそろっていないところが多く、機器類がなくても取り組める内容を考えた。その他、住民の声を聞きながら、独自性ある内容を考え実施した。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	介護予防推進員や食生活改善協議会メンバーによる活動。	介護予防推進員や食生活改善協議会メンバーを対象に養成講座を開催する。	○	29年度		
住民主体のネットワークの形成		通いの場を増やしていき、年に1回、全員または代表者が集まる機会を作りたい。	△	29年度以降		
介護予防事業の評価	リハ職などの専門職による評価が必要。		○			
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 山形県 モデル市町村名 中山町

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉課		3				3	←主担当に◎を選択してください。
							0	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	健康福祉課		3				3	←主担当に◎を選択してください。
							0	
							0	
							0	

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 介護予防主担当課以外の課 • 地域包括支援センター • その他 	庁内連携無し	そもそもの職員数が足りず、各地域に根差した活動に関して他の課との連携は難しい。	他の課との連携予定は無し。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 事務職、保健師、リハ職 • その他 	職種連携無し	専門職が身近にいない。 保健師は日々の業務で忙しく、職員数も少ない。 資源が乏しい。	専門職等との連携の予定は無し。

③第6期介護保険事業計画
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

サービス提供者と利用者の「支える側」「支えられる側」という画一的な関係性でなく、高齢者の社会参加等を進め、世代を超えて地域住民がともに支え合う地域づくりを行う。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		県担当者との今後の進め方の相談			
戦略策定					
関係者への働きかけ	«誰にどのような働きかけをしたか» ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	民生委員へ説明会への参加呼びかけ	生涯スポーツ担当課関係団体へのアプローチ（可能ならば）	△	高齢者向けなので、年齢層や時間帯の調整が必要になる。
住民に対するアプローチ	«住民にどのようなアプローチをしたか» ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	一次予防参加者のうち、サークル活動に積極的な方に声掛けし、広域ADの研修会へ一緒に参加。DVDをダビングし、提供。広報への掲載。	より焦点を絞って、サロン活動している地区や現在中央公民館で活動している方への各地域での活動促進、出前講座。	◎	いかに興味を持ってくれる人を呼び込むか、先頭に立ってくれる人を探すか。

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	一次予防参加者のうち、サークル活動に積極的な方に声掛けし、広域ADの研修会へ一緒に参加。	各地域へ出向いて出前講座を実施。	○	誘い方や言葉の使い方に気を付け、「やってくれる方」をどのように巻き込むか。
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	現在は週1回程度の活動。しかし中央部に集まったの活動のみ。日によって参加者数が異なる(10-20人程度) 100歳体操の他、しゃんしゃん体操や手芸、お茶のみ等その都度内容が異なる	とりあえず中央部以外での地区単位で1か所のスタート。 支援終了後の継続活動。	◎	活動の継続。
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他		効果測定実施のサポート。	○	
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他		おもり等を購入し、実施者へレンタルなども考えている。	○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果(職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など)

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

他の業務がありモデル事業専門に取り組めなかったが、外出できていない方や予防予備軍の方、前期高齢者数の増加を考慮すると、地域での通いの場を作り出すことが重要と感じている。主体性に乏しい町民性を考慮し、地域への声掛けやアプローチ(言葉に気を付けて)の重要性を改めて認識した。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	他人事と考えている方が多い。	積極的に地域へ入ってプレゼンを実施する。	◎	4月以降順次		
住民主体のネットワークの形成	繋がりが密な地域もあれば希薄な地域もあり、老若男女交わった地域のつながりが必要。					
介護予防事業の評価	声掛けや主導者への説明は行ったが、地区単位での活動につなげられなかった。	中央部での活動があるため、地域へ散っての活動を支援する。	◎	26年度内にアプローチ開始		
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	
介護 予防 事業	最上町健康福祉課	最上町地域包括支援センター		2 ◎		1	3
	最上町健康福祉課	運動機能向上委託事業				1	1
	最上町健康福祉課	口腔機能向上委託事業				1	1
							0
モ デ ル 事 業	最上町健康福祉課	最上町地域包括支援センター		2 ◎		1	3
	最上町健康福祉課	保健指導係	1	1			2
	町立最上病院	リハビリ専門職			2		2
							0

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容の周知、検討 	リハ職は通常業務終了後でないとい時間とれない。	リハ職の参加しやすい体制を病院へ依頼する。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 包括職員、保健師：事業の説明 リハ職、事務職、包括職員：体力測定 包括職員、リハ職：事業終了後の評価 	体力測定だけではなく、実際に運動している場面をリハ職にも見てもらい、指導してもらいたかったが リハ職は通常業務があり参加できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> リハ職の参加しやすい体制を病院へ依頼する。 役割分担を明確にし、連携していく。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

○介護予防の推進、日常生活を支援する整備などの課題方向性として下記を記載した。
 ・団塊の世代が高齢期を迎えるなど、人口の高齢化が急速に進む中、単に高齢者の運動機能や栄養状態の心身機能の改善だけを目指すのではなく、日常生活の活動を高め社会参加を促進するための介護予防の取り組みを推進することが必要である。
 ・要支援または要介護状態になるおそれのある高齢者や一般の高齢者を対象に、機能回復訓練と併せて、地域の中に生きがい・役割を持って生活できるような居場所と出番づくりなど、高齢者本人を取巻く環境へのアプローチも含めた介護予防対策を多職種と連携し積極的に推進する。
 ・総合事業の実施にあたっては、地域における均一なサービス提供体制を構築していくため、介護事業所やNPOなど多様な提供体制による受け皿を確保していくとともに、住民主体による生活支援サービスの充実を図り、高齢者の社会参加を推進していく必要がある。このようなことから、本町では十分な準備・移行期間を設け、平成29年4月1日の事業開始を予定している。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 既存データの整理 地域資源の整理 行政課題の整理 	左記同様	○	
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 全体像を整理し、住民の参加意欲を引き出すための具体策を検討した。 	左記同様	○	
関係者への働きかけ	<<誰にどのような働きかけをしたか>> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> リハ職、保健指導係へ事業の説明、協力依頼 区長、公民館長、民生委員、健康福祉推進員、衛生連絡員へ事業の説明 	左記同様に地域の複数の方に働きかけをし、地域で取り組む姿勢、必要性考えてもらう。	○	責任を負うことに抵抗がある方が多いので、時期を明確にし初めのうちはサポートをすること、みんなで取り組むことを強調し説明していく。

住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会 ・広報への掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉推進員、衛生連絡員の研修会での事業説明 ・地区へ出向き説明会開催 ・モデル地区活動報告会を開催し、参加希望する地区を募る 	◎	事業への関心を示した地区の役員へもアプローチしていく。
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・包括職員が区長、公民館長、健康福祉推進員、民生委員、衛生連絡員へ事業の説明。その後地区住民へ再度説明会開催。 ・物品の準備は地区へ依頼し、機材の使用法説明 ・おもりは貸し出しとした。 ・4回目まで包括職員が出向き支援した ・健康ポイント対象事業とし参加者の拡大、継続支援した 	左記同様	○	初めのうちはサポートをすることで負担を軽減していく。継続していく地区が増えるよう支援していく。
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数：2か所 ・十日町地区 参加者数：平均18名、毎週火曜日、13回開催 ・上満沢地区 参加者数：平均21名、毎週水曜日、11回開催 ・内容：いきいき百歳体操 	内容はいきいき百歳体操とし、物品の準備、人材育成などの観点から年に1か所ずつ通いの場を増やしていく。既実施地区へは継続できるように支援していく。	◎	
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・主となる人を1人ではなく、2~3人とする ・評価方法：参加者数、終了後に基本チェックリスト、アンケート実施、継続の意思確認など 	左記同様	◎	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他 				

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

体力測定の結果は全員が改善しなかったが、住民の声では

- ・痛みが和らいだ、皆と会えることが楽しみになった。
- ・みんなと会うことが楽しくなった。ラジオ体操で飛び跳ねることができるようになった。
- ・最初、効果あるか心配だったが、皆と体操し楽しく笑いながら行え、後半体が軽くなり元気になった。
- ・膝が悪く、階段が大変だったが、特に下りがスムーズになった。
- ・続けたい、みんなと会うことが楽しい。

など好評であった。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	介護予防事業でハイリスク者への教室は実施しているものの、より身近な集落で実施するためには、体制整備と他機関専門職との連携が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉推進員、衛生連絡員の研修会での事業説明やモデル地区活動報告会を開催し、参加希望する地区を募り、支援。⇒目標：新規1ヶ所、継続2ヶ所 運動を継続したいと希望した地区への支援。 	◎	H27年度	地域包括支援センター、健康福祉課（保健師）、教育委員会（スポーツ担当等）、町立病院（作業療法士、理学療法士）	リハ職は通常業務終了後でない時間帯がとれない。
住民主体のネットワークの形成	事業中、3カ月間は声かけ体制ができた。	継続した声かけ体制の支援	○	H27年度		
介護予防事業の評価	体力測定の結果では全員が改善した訳ではなかった。しかし参加者の感想、意見は好評であった。	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定 基本チェックリスト 参加者の状況 アンケート調査など 	○	H27年度		
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 山形県 モデル市町村名 遊佐町

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉課		2	8 ◎			10	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	健康福祉課		2	3 ◎			5	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	健康福祉課 (健康支援係と福祉介護保険係) 総務課	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員会・区長会で介護予防モデル事業の説明 各集落へ百歳体操の普及啓発 いきいき百歳体操サポーター養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、区長会の反応が鈍い。 ゆざ元気サポーターへの呼びかけだけでは、集落での通いの場の立ち上げは困難。 集落への効果的な働きかけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 体操の有効性や通いの場の必要性など効果的に伝わるように、地道に説明会を行っていくことが必要。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師 スポーツ推進委員(生涯学習課管轄) 	事務職：遊佐町の高齢化に状況をまとめ、説明 保健師、スポーツ推進委員：各集落での健康教室開催時に百歳体操の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 打ち合わせの時間をタイムリーに開催できず、進捗状況がスタッフ間で共有できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間で細かく戦略を共有することが大事。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

《介護予防の推進》 高齢者が要支援・要介護状態となることなく、できる限り健康を保持するために、地域包括支援センターを中心に、介護予防事業を推進する必要があります。そのため、要支援・要介護状態となる可能性が高いと考えられる高齢者の実態把握や生活機能等の向上に向けた支援を行います。介護予防事業の実施にあたっては、生活機能評価により把握された高齢者に対して介護予防事業への参加を促す取組や、介護予防事業を受けることにより自立した生活を送ることに対する支援など効果的・継続的な取組を推進します。

《生活支援サービスの体制整備》 単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者が増加するなか、高齢者が地域とのつながりや生きがいを持ちながら暮らしていくためには、医療・介護サービスの充実を図るとともに、日常生活を支えていく生活支援サービスの体制整備を同時に図っていくことが不可欠です。また、地域の中で役割を持って活動・生活することが生きがいや介護予防にもつながっていきます。こうした生活支援サービスや社会参加へのニーズは、地域の高齢化や社会資源等の状況に応じて様々なものが想定されるため、できるだけ多様な主体（自治会、NPO、民間企業、社会福祉法人、シルバー人材センター、ボランティア等）の参画を得ながら連携体制を構築し、それぞれの主体の持ち味を活かした地域の支援体制の充実・強化を図ります。今回の法改正では、生活支援サービスの体制整備を促進する事業を地域支援事業の包括的支援事業に位置づけ、地域の体制整備を推進する生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置や、その活動を支える協議会の設置などの体制整備を検討しながら、取組を推進します。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	（視点）	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断	人口、高齢者の人口、将来推計人口、要介護認定者数、新規認定者数、認定率、給付費、介護保険料基準額、健診受診率、民生委員の活動状況、老人クラブ数と活動状況、社会福祉協議会の活動状況、まちづくり協議会、集落公民館等の位置、トイレなどの確認	<ul style="list-style-type: none"> データをまとめて、主な内容をパワーポイントにし説明しやすい資料に作成 地域支え合い体制構築事業や、「高齢者安心生活構築プロジェクト」で集落公民館の改修や物品の購入を図り、使用しやすい環境整備を行った 	<ul style="list-style-type: none"> データを更新しながら説明資料の作成を行う 高齢者安心生活構築プロジェクトを利用した集落には積極的に通いの場の構築に向けたアプローチを行う。また、物品の購入に関しては椅子も念頭に入れてもらうよう担当者が説明する。 	○	わかり易い物にする
戦略策定	健康福祉課と地域包括支援センターで打ち合わせ会を行う 実施前（6月）、中間（1月）	<p>6月 以下のことを決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の説明会を6地区の区長会をはじめ、民生委員会で実施 いきいき百歳体操サポーター養成講座の開催決定 集落老人クラブで定期開催しているところへ百歳体操普及啓発を行う スポーツ推進員へ事業説明を行い、協力を得られるようにする <p>1月 進捗状況報告と軌道修正</p> <ul style="list-style-type: none"> 百歳体操を実施している集落は1集落、2月から開催予定1集落あり 3月に再度いきいき百歳体操サポーター養成講座開催決定 	<p>年度当初に打ち合わせを行う</p> <p>メンバー：福祉介護保険係 健康支援係 地域包括支援センター 社会福祉協議会 スポーツ推進委員</p>	◎	地域包括支援センターで力を入れている認知症の地域見守りを視野に入れて行う

関係者への働きかけ	<p>《誰にどのような働きかけをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会へ 区長会に事業説明会を入れたいと要望する ・福祉介護保険係へ 民生委員会へ事業説明会を入れたいと要望する ・婦人会長へ 研修会として百歳体操講習会を入れてもらえないか要望する ・地域のまちづくり協議会へ 介護予防モデル事業の協力を求める ・老人クラブ代表者へ 介護予防モデル事業の協力を求める 	<p>事業説明と百歳体操普及啓発を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> ①任期で集落の役員が改選となるため、区長会、健康推進員などへ ②老人クラブ ③各地区婦人会 ④JA女性部 	◎	住民のやる気が引き出せるような内容にする
住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<p>事業説明会→・区長会 ・民生委員会</p> <p>事業説明と百歳体操講習会→・婦人会 ・ゆざ元気サポーター など運動サークル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員 ・老人クラブ <p>周知→対象により異なり、①広報②集落内にチラシ配布③地域の機関誌掲載などあり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の方には、会議を開催する時に説明会を入れてもらう ・集落へは、健康教室開催の要望があった時に、講習内容に百歳体操をすすめる ・いきいき百歳体操サポーター養成講座を開催する ・町の出前講座のメニューに百歳体操を入れる ・広報に通いの場づくりについて掲載する（高齢化など町の現状と今後について、介護予防事業H26年度の取り組みについて） 	◎	広く住民に知ってもらうために、説明できる保健師数を増やす（スタッフの育成）
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉介護保険係から、集落の運動教室へ百歳体操を取り入れられないかと、保健師に照会あり、集落役員へ説明会と百歳体操実技指導を行う。 ・集落へ物品を貸出しする→体操DVD2本、重り、重り入れの見本（既製品と手作り） ・初回に保健師が支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ支援に関しては、保健師のみでなく、スポーツ推進委員の協力を得て、集落へ出向くのは1～3回程度とする ・物品の貸し出しは、DVDと重りのみとし、椅子については、事業説明会の時に見本を持っていき値段などを紹介する。 ・初回と3か月後にタイムアップ&ゴーと開眼片足立ちを測定し、参加者のモチベーション維持に目に見える形で表したい 	○	軌道に乗った集落の事例を紹介しながら普及を図る
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<p>通いの場 1か所 参加者数 10人～15人/回 開催頻度 週1回</p> <p>内容 ①いきいき百歳体操 ②しゃんしゃん体操（花笠音頭） ③顔面体操（スポーツ県民歌） ④その他 輪投げやカラオケなど</p> <p>※①～③までは毎回実施し、④はその時々で参加者がやりたいことを行っている</p>	<p>※内容については、集落の要望に合わせて選択。軌道に乗ったところで歯科などの健康教室を入れていきたい</p>		
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<p>ルール：①DVDの貸出しは、3人以上で週1回行うところのみ ②重りは必要分貸し出す</p> <p>リスク管理：始める時に百歳体操の説明を行い、体調管理についてもふれる</p> <p>リーダー：DVD借用書にリーダーなど協力してくれる人がいるか確認している</p> <p>評価方法：タイムアップ&ゴー、開眼片足立ち、主観的健康観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール：百歳体操普及についての要綱を作成する（H26年度の内容を盛り込む） ・リスク管理：リーダーをはじめ参加者にあらかじめ説明しておく ・評価方法：タイムアップ&ゴー、開眼片足立ち、主観的健康観 	◎	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他 	<p>既存の事業の活用：集落での健康教室に百歳体操の普及啓発を図る</p> <p>予算の確保：介護予防事業と保健一般から支出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左記と同様 ・社会福祉協議会のサロン事業との連携を図りたい ・予算：百歳体操推進事業として、集落へ出向いて百歳体操の普及啓発を行う際に必要な、イス、重り、重り入れなど購入予定 	◎	事業の見直しは毎年行っていく

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）
効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

職員の意識の変化

- ・住民への伝え方を考えさせられた
- ・先を見据えた事業展開の必要性を再認識した
- ・保健師が地区担当制であるメリットを実感した。ここを強みに頑張りたい

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	高齢に伴い、体力の低下、認知機能の衰えなど個人的レベルでは認識しており個人で運動をしたり趣味活動にいそしむことはあっても、地域全体でこれを予防していこうという姿勢はまだ乏しい。	体操に観点が集中しすぎたため、集うことの効果をもっと強調していくことが重要。	◎	4月	事務局と保健師と打ち合わせを行う	周知方法を工夫する
住民主体のネットワークの形成	住民の中でキーパーソンとなる方を見つけ、周りにいる協力者とうまく結びつけるような何かがあるといい。	年に、6地区のうち3地区で百歳体操説明会を実施し、集いの場立ち上げを目指す。先に立ち上がった集落との交流会を行うなど、工夫が必要。	◎	6～3月	地区担当保健師を中心に行う	集落で説明会を行った際、キーパーソンを見つける
介護予防事業の評価	住民運営の集いの場の増加 百歳体操の普及状況 集うことによる主観的健康観の変化 タイムアップ&ゴー、開眼片足立ち測定 要介護認定率		○	1～3月		評価したことを住民にフィードバックする
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 福島県 モデル市町村名 田村市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	保健課			4 ◎		1	5	←主担当に◎を選択してください。
	介護福祉課		2				2	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	保健課			4 ◎			4	←主担当に◎を選択してください。
	介護福祉課		2				2	
							0	
							0	

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 介護予防主担当課以外の課 • 地域包括支援センター • その他 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括支援センターへ情報提供と研修会参加を呼びかけた。 • 介護福祉課と今後の進め方についての打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括支援センターへ情報提供や研修会を呼びかけている状況で、モデル事業を共に広げる状況には至っていない。 	連携の強化
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> • 事務職、保健師、リハ職 • その他 	<ul style="list-style-type: none"> • 理学療法士会の協力を得て、体操の作成に携わっていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今後通いの場が拡大した際、理学療法士の現場への支援が可能かどうかという課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 理学療法士の協力を得て効果の検証を行う。また、携わるサポーター等への研修会講師を依頼する。

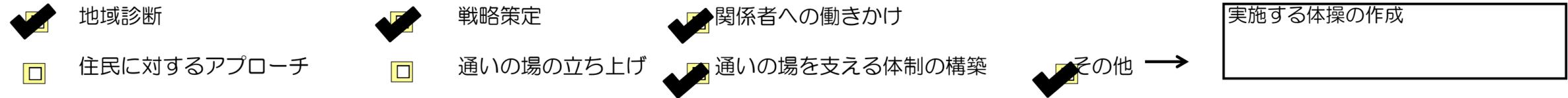
③第6期介護保険事業計画
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

(抜粋) できる限り要介護状態とならないための予防の取り組みや自立支援型の介護の推進 …… 策定中

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		行政課題の整理をし、行政内で検討する機会が不十分であることを把握し、どのように連携していくかを検討した。	<ul style="list-style-type: none"> 行政課題の整理 地域資源（各種団体、高齢者が集える場の検討）の整理を進める。 	△	
戦略策定		今後3年間どのように体制を整えていくかをタイムスケジュールにし戦略を策定した。	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制について検討、修正 事業の評価方法についての検討 	◎	
関係者への働きかけ	<<誰にどのような働きかけをしたか>> <ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター リハビリテーション関連団体 社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO 社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉課とは、今後の展開についての打ち合わせを行った。 包括支援センターへは先進地の事例を学ぶ機会づくり 民生委員へ市の取り組みの紹介 理学療法士会へ協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 他課、地域包括支援センターとの打ち合わせ 理学療法士会へ協力依頼し事業をすすめる。 サポーターの育成、養成 	◎	他課、包括支援センターとは情報提供のみになっているので、意見交換ができるような打ち合わせが必要。
住民に対するアプローチ	<<住民にどのようなアプローチをしたか>> <ul style="list-style-type: none"> 説明会・講演会等 出前講座 周知・広報 その他 		<ul style="list-style-type: none"> 老人会への説明及び出前講座、あらゆる高齢者の集いや地区組織関係機関に向け説明会及び出前講座の実施。 	◎	

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	・立ち上げ支援の内容検討、設定	・通いの場を3か所立ち上げ予定。 ・保健師、理学療法士、運動指導員が体力測定、体操の実際について支援する。	◎	
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	・12か所 約200人 ・転倒予防体操、レクリエーション、交流、専門職による学習			
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	・継続支援内容の検討、設定 ・リスク管理の方法 ・評価方法の検討 ・グループリーダーの交流会による支援 ・サポーターの育成、養成	・H26年度に検討した継続支援の内容の実施、評価方法の実施 ・グループリーダーの交流会による支援 ・サポーターの育成、養成	◎	
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他		・H26年度までに既存事業でたちあがった通いの場へ継続支援、体力測定の実施 ・モデル事業の効果を検証を行い、継続定期に通いの場の立ち上げを継続的にできるようにする。	◎	介護予防事業と健康増進事業を整理していくことが必要である。

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

今まで実施してきた通いの場立ち上げ、継続の体制方法について課題であったが、先進地での取り組み方法を知りことにより、市に合わせた内容に変更し設定することができた。また、今まで使用していた体操についても効果のある体操になるよう専門職からの提案が得られた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	介護予防活動は、健康増進活動からの引き続きであると考え。健康増進活動部門との連携を取り、効果的に進めていく必要がある。	早い段階からの介護予防を実施するために健康増進部門との連携を図る。	○	H27～	担当課、部門との連携及び関係機関との連携強化	マンパワー不足 連携不足
住民主体のネットワークの形成	社会福祉協議会や各種団体を持つ課との連携が十分でなく住民主体のネットワーク形成についての分析ができない。	他課、庁外関係機関と連携をとり、情報収集を行い、ネットワークの形成が行えるようにする。	◎	早急に	担当課、部門との連携及び関係機関との連携強化	連携不足
介護予防事業の評価	介護予防事業参加者の運動器能評価はしているが、介護保険の利用等、医療費の比較については評価していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・体操実施前後の体力測定での効果を評価。 ・体操実施群と非体操実施群で介護保険の利用、医療費などの比較をする。 	○	H27～	担当課との連携強化	マンパワー不足
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

福島県

モデル市町村名 鏡石町

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	
介護 予防 事業	健康福祉課	健康グループ		2 ◎		2	4
		福祉グループ	2				2
							0
モ デ ル 事 業	健康福祉課	健康グループ		2 ◎		2	4
		福祉グループ	2				2
							0

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	地域ケア会議（不定期）での情報提供	地域包括支援センターと連携して実施する体制にまでは至っていない	連携の強化
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	保健師、管理栄養士、介護予防運動指導士と連携	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場が拡大した場合の支援体制 リハ職派遣の検討 	各専門職が連携し取り組む

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

作成中のため第5期介護保険事業計画より抜粋
 保健・医療・福祉の連携体制の強化、介護予防と介護サービスの推進、高齢者の生きがいづくり

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		地域資源の整理	<ul style="list-style-type: none"> 各地区の状況を把握していく 地域資源の整理 	◎	
戦略策定		モデル地区の選定	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区の活動を出前講座等の際に紹介し、提案を図る 支援体制・内容の検討 	○	
関係者への働きかけ	«誰にどのような働きかけをしたか» ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	これまで老人クラブ会員を主とした教室を実施してきたが、会員以外の方からの希望もあり、区として実施していくことが望ましいのではないかと考え、区長、老人クラブ会長、健康推進員と協議した	老人クラブ会長会議、老人クラブ、民生委員協議会、健康推進員会、区長会、ボランティア団体等に住民主体のつどいの場の必要性について説明会を実施していく	◎	
住民に対するアプローチ	«住民にどのようなアプローチをしたか» ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区の区長、老人クラブ会長、健康推進員で事業展開の協議 チラシの配布、回覧（区長作成） 	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ、各種団体、二次予防事業参加者等への出前講座の実施。 広報による周知 	○	

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 <<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	区長、老人クラブ、健康推進進、福祉グループ事務担当者、保健師との協議 ・モデル地区1カ所 参加者30人程度 ・ラジオ体操の実施 ・カラオケ、お茶のみ ・口腔、栄養、健康づくりに関する出前講座	通いの場の新規立ち上げ		
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	地区、行政、関係者の役割の明確化	・モデル地区の継続支援 ・サポーター養成		
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他		予算の確保		

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

これまで行政主導で企画・運営している方法がとられてきたが、各々の役割を明確にし、共通ルールを設定すれば、住民主体で運営していくことは可能であること。参加者の呼び込みや教室の運営においても住民主導の方が柔軟に対応できると感じた。行政とのパイプ役となるリーダーとなる方の存在が不可欠であると感じた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	これまで教室参加型の活動が主であったが住民が主体となり、役割をもち、介護予防の必要性を実感できる活動が求められる		○	27年度～		
住民主体のネットワークの形成	老人クラブ、各種団体等以外のネットワーク形成についての把握が不十分	社協、地域包括、他課等と連携し情報把握に努める	○	27年度～		
介護予防事業の評価	二次予防参加者の運動機能・口腔機能評価はしているが、単年度だけの評価になっている。		○	27年度～		
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 福島県

モデル市町村名 西会津町

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉課	福祉介護係	7	1 ◎	0	1	9	←主担当に◎を選択してください。
		健康支援係	2	5	0	2	9	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	健康支援係	福祉介護係	0	1 ◎	0	0	1	←主担当に◎を選択してください。
		健康支援係	0	3	0	1	4	
		にしあいつ地域包括支援センター		1			1	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当の課以外の課 地域包括支援センター その他 	①1 自治区モデル的にご当地体操で実施 ・福祉介護係の保健師が企画、実践は健康支援係の保健師、運動指導士、地区組織と協働 ②ご当地体操と元気でまっせ体操の効果検証 ・包括、2係の保健師3人で分担して実施。	・データ提供の承諾書の必要性 ・道具を使わず、とりくみやすく効果的な体操は？ ・2係に職員がまたがったの実施だったことから、連絡調整に時間が必要なことや主導権のあいまいさ。	・新に2箇所の実施分予算化。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	地元の老人保健施設PTに依頼 ①ご当地体操の制作 ②現地指導と評価項目への助言	・地域の事業に協力いただくための、十分な時間が取りにくい中での対応でご苦労をおかけした。	・個別ケースや事業の中の専門的な課題や技術面での助言や相談役を担っていただく。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

1. 高齢者の生きがいづくり：地域での通いの場づくりの支援
2. 高齢者の健康づくり：運動の習慣化を進める
3. 介護予防事業の推進：生活支援コーディネーターの配置と協議体の設置により新しい総合事業を推進

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断
- 戦略策定
- 関係者への働きかけ
- 住民に対するアプローチ
- 通いの場の立ち上げ
- 通いの場を支える体制の構築
- その他 →

ご当地体操を作成し実践。体操の効果を検証するため、大東市元気でまっせ体操と比較検証中。

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		○地域包括ケア見える化システムが活用できず、国保の見える化システムで代用。 ○昨年度からサロン活動支援を社協とともに強化してきた成果がでてきたことから、サロンの活動内容調査を民生委員を通じて行うことができた。	○36箇所の住民主体のサロン活動のほとんどで何らかの運動をとりいれていること、そのうち週1回定期開催しているサロンが3箇所あることがわかったため、サロンを中心として普及していく方法と、サロン活動のない集落では老人クラブ等への働きかけを考えたい。健康運動推進員の自主活動として自分の集落での開催を検討。	◎	○実際の教室支援部隊と「やりたい」を引き出す普及部隊が必要。2つの係りで役割分担が必要。
戦略策定		①課内での共通理解を図り方向性を共有する ②普及する運動を決定する ③評価指標を決める ④支援バック内容、継続フォローの内容を決める ⑤住民主体の運動による通いの場のモデル的实施	○H27年度は2箇所新規実施予定。 サロンや老人クラブに説明にはいる。 ○モデル的实施の通いの場へのフォロー体制の確立	◎	○モデル事業は福祉介護系の保健師が企画したが、今後の活動の企画運営の役割分担が必要。
関係者への働きかけ	《誰にどのような働きかけをしたか》 ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	①サロン交流会で、開始間もないサロンリーダーやこれから開催を考えている地区リーダーに、支援教室の内容説明。 ②上記内容を地域包括支援センター職員、サロン活動を支援している社協担当者に説明。	○老人クラブ連合会、社会教育（出前講座担当者）サロンリーダー、民生委員協議会、自治会長会、健康運動推進員、保健指導員への住民主体のつどいの場の必要性和効果について説明会を実施していく。	○	○住民の「やりたい」を支える地域のリーダーの意識改革を引き出す普及講座の工夫。
住民に対するアプローチ	《住民にどのようなアプローチをしたか》 ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	①モデル自治区の自治会長・民生委員・保健指導員・老人クラブ会長に対して事業内容の説明と、事業展開の戦略協議。 ②モデル自治区の住民に説明会実施。	○単位老人クラブ、各サロン等へ住民主体のつどいの場の必要性和効果、支援教室について出前講座の実施。	○	

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	○モデルとなる通いの場の立ち上げ ・スタッフ：事業担当保健師・地区担当保健師 健康運動指導士・健康運動推進員 理学療法士・作業療法士 ・支援回数：初回4回連続・3ヵ月後1回	○希望団体へ通いの場の立ち上げ支援 ・スタッフ：地区担当保健師・健康運動指導士 健康運動推進員 ・支援回数：初回4回連続・3ヵ月後1回	△	モデル自治区実施中で、成果が見えていないので、来年度早々に評価したい。
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	○実施箇所：1ヶ所 ○参加者数：16人 ○実施内容 ①東北大学指導の床でするストレッチ ②地元のリハスタッフ考案の床でする新聞棒体操 ③こゆりちゃん体操（整理体操） ④茶のみ	○実施箇所：2ヶ所 ○参加者数：10人～15人程度 ○実施内容 ①東北大学指導の床でするストレッチ ②地元のリハスタッフ考案の床でする新聞棒体操 ③こゆりちゃん体操		△
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	○共通ルール：初回4回、3ヵ月後に1回介入 ○リスク管理：血圧160/95・脈拍90以上 （再測定後同じであれば見学） ○健康運動推進員に研修実施後、サポート依頼 ○評価方法：T&G・握力・開眼片足立ち 主観的健康感・立ち上がり動作感覚	○共通ルール：初回4回、3ヵ月後に1回介入 ○リスク管理：血圧160/95・脈拍90以上 （再測定後同じであれば見学） ○健康運動推進員にサポート依頼 ○評価方法：T&G・握力・開眼片足立ち 主観的健康感・立ち上がり動作感覚	△	モデル自治区実施中で、成果が見えていないので、来年度早々に評価したい。
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他	○これまでの「貯筋うんどう教室」で使用していた体操ラミネートシートの活用や体力測定用紙、機材の活用。 ○地域支援事業の出前講座の振り替えや残予算活用	○新規2箇所分の予算化 ・血圧計 ・健康運動推進員報償費 ・消耗品費 ○介護予防の出前講座のメニューを増やす形で希望団体に出向く。	○	働きかけから、実践まで2つの係り内で役割分担が必要。

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

*1月から3月まで3ヶ月単位で実践中のため、成果はまだわからない。

<職員の意識の変化>

・行政主導型の教室に慣れているため、住民に任せる、住民が決めたことに待つ姿勢をとることが最初はなかなかできない自分であることに気付き、自分自身の姿勢を立て直すのに苦労したが、住民は自分たちで決めたことはきちんとできるということがわかった。

<住民の意識の変化・声>

・5回以降は、自分たちで開催していくための準備を2回目以降から考え、人任せの体操ではなく、1種目ずつ回り番で教示しながら、うまく教示できない人にはみんなで助け合って実施していく形をとっていったり、集会所の鍵開けと雪かきを当番制にするなど、自分たちでルールをつくり続けている。

・最初は座位になれず、椅子でスタートした方も、1ヶ月経過する頃は座位でみんなと同じように参加できるようになったことを喜んでた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	体操の実践からの運動、栄養、口腔に関する知識の普及と実践への支援とあわせ、生活習慣病や認知症に関する普及啓発も、継続的なフォローの中で行っていく必要がある。	これまでの活動状況や、今後の住民の意欲や希望から、フォロー時の教育内容の計画も立てていきたい。	△	9月		
住民主体のネットワークの形成	この事業は、単に介護予防を目指すだけでなく、週1回の集まりごとが、地域の支え合い活動にどう影響していくのかも興味深い事業と感じている。できれば、ネットワーク形成介入への学びもしたい	3ヶ月後、6ヵ月後とフォローしていく中で、介護予防のみならず、地域支え合い活動につながる情報提供やしかけも試みたい。社協や地域包括支援センターとの協議も必要。	○	6月		
介護予防事業の評価	事業に取り組むことだけで精一杯感があり、いつも事業評価に注力できない。できれば、このモデル事業のフォローとして評価の方法まで学べる機会があると助かる。	事業ごとに、単年度ごとの評価と介護予防全体の評価をしたい。その際、①評価基準をどのようにすべきか、②アウトカム指標の捉え方を学びたい。	◎	4月		
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
 報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	町民課		3 ◎	1			4	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	町民課		3 ◎	1		4	←主担当に◎を選択してください。	
						0		
						0		
						0		

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 三島町社会福祉協議会 三島町地域包括支援センター 福島県立宮下病院 地域リハビリテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担の明確化（特に普及活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 包括支援センター、社会福祉協議会との連携における打合せ会の継続
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、看護師、リハ職、柔道整復師、ケアマネ 	<ul style="list-style-type: none"> リハ職等専門家との連携体制の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防事業の普及事業においてリハ職の依頼を検討

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

介護が必要な状態にならないように、あるいは介護状態の方がこれ以上状態を悪化させないようにする「介護予防事業」を実施しています。
 これまでは介護状態に陥る危険性のある虚弱な高齢者を対象に実施してきた「二次予防事業」とそれ以外の一般の高齢者に対する「一次予防事業」の二通り実施してきましたが、今般の介護保険制度の改正によりこれらは一本化され、新しい総合事業へと移行されます。
 事業の改正にあたり、介護予防事業の見直し、検討を行い、三島町では総合事業への移行は平成28年度より実施を予定し、平成27年度中に検討していきます。
 その一環として平成26年度に国の事業として実施している「地域づくりによる介護予防推進モデル事業」を実施し、体操を軸に集いの場づくりを支援していくための仕組み作りを進めています。
 また、平成27年度より予防給付（要支援者に対するサービス）のうち、訪問介護、通所介護については全国一律の基準に基づくサービスから、地域の実情に応じて町がサービスの基準や単価設定を行っていくこととなります。このうち、通所介護についてはこれまでの介護予防事業における通所型事業の活用を図っていくと共に、前述の集いの場を活用していきます。

【具体的内容】

- 足腰元気教室・プール教室の実施
- 通所型介護予防教室「あつまっぺ」の実施
- 体操を中心とした集いの場づくり事業の実施

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		・包括支援センター、社会福祉協議会事務局との打合せを行い実施。 介護保険料 24～26年度 4,960円 →27～29年度 7,500円			
戦略策定		・包括支援センター、社会福祉協議会事務局との打合せを行い、会議に都道府県アドバイザー 福島医科大早川氏、県庁高齢福祉課、会津保健福祉事務所、地域リハ広域支援センター、県立宮下病院も併せて出席頂き実施。	・モデルとなっている集いの場の体力測定を4月に予定しており、今後の戦略を検討予定。 ・三島バージョンの体操の作成（声を出せる仕組み） ・サポーター養成の検討	○	冬の時期の活動 →冬期の体操の継続

関係者への働きかけ	<p>《誰にどのような働きかけをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション広域支援センター ・福島県立宮下病院 ・会津保健福祉事務所 ・社協、民生委員、ボランティア、保健推進委員 ・サロン運営代表者 	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会を追加 	○	
住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/26 広域アドバイザー逢坂氏による住民向け説明会 ・2/26 サロン関係者・参加者の集い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとで実施しているサロン内での体操の普及活動 ・温泉施設での放映、教室 ・町内会への説明等 ・みしまテレビ（ケーブルテレビ）の活用 	○	
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ箇所 1箇所 ・役場、包括が立ち上げ支援を行った。 ・説明会兼顔合わせ会を1回行い、体操の支援を3回実施。1回目に体力測定を行った。体操の紹介と体操への取り組み方に対して指導を行った。 ・地域リハの方も1回目に参加。3か月後の評価も一緒に行く。 	継続		
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 1箇所 ・参加者数 7名 ・通いの場で行われている内容 大東市元気でまっせ体操 座位バージョン 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 冬期間であったことで立ち上がりが悪かったため、春以降に立ち上げに向けた声かけ ・通いの場で行われている内容 大東市元気でまっせ体操 座位バージョン 	◎	
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ職による立ち上げ段階における体操指導 ・行政、包括、社協による立ち上げ支援 ・体力測定支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・サポーター・リーダー育成 ・リスク管理の方法 	◎	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンでの体操の普及 ・地域支援事業における予算の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ローカルでの体操の放映の実施 ・声を出す体操の開発 	○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- ・行政、包括、社協が連携して介護予防の事業を考えることができた。
- ・住民に体操を継続する効果を伝えることができた。また、その伝えるポイントを押さえることができた。
- ・元気でまっせ体操が比較的容易に行える、体操をした後体が軽くなったため続けたいなどの声を住民からもらった。
- ・効果測定については、1月末に集いの場が立ち上がりその3か月後を予定しており、4月以降に実施見込。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の普及、啓発事業の充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビでの体操の放映 住民説明会のVTRの編集、追加。 	○	4月～	町	
住民主体のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体による集いの場の立ち上げは、雪が深い三島町では冬期間では困難 	<ul style="list-style-type: none"> 春先にキャンペーンを実施して各地区サロン等での普及を行う。 	◎	4月～5月	町、社協、包括	統一的な説明ができる普及員の育成
介護予防事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> 二次予防の終了者が継続して体操を行う受け皿がなく、リバックしてしまう。 体力測定などの評価そのものを入れていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 二次予防の対象者をサポーターとして活躍できる場づくり 体力測定の実施による定期的な効果測定の実施。 	○	4月～	町、社協、包括	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 専門的に介護予防を行うためのリハ職の参加を実施してもらう。 				

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	長寿福祉課	二次予防事業・認知症予防		2	1	6	9	←主担当に◎を選択してください。
	健康づくり課	一次予防事業		◎	◎	5	13	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	長寿福祉課			2	1		3	←主担当に◎を選択してください。
				◎			0	
							0	
							0	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	健康づくり課（地域の情報共有、住民説明会出席） その他：①地域包括支援センター（地域の情報共有、住民説明会出席）②社会福祉協議会（サロン活動推進事業の状況把握）		事業展開にあたり、地区担当している保健師から地域情報収集し、住民主体で事業立上げ地区の選定をしていきたい。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	地域包括支援センター職員 市立総合病院：リハ職 浜通り訪問リハビリステーション：リハ職	地域包括支援センターや他機関のリハ職の協議が進んでいないため、具体的な役割分担ができていない。	地域包括支援センター等関係機関と協議し、各職種の専門性からの地域介護予防のために連携していきたい。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

計画の基本的な考え方の中で、2025年を見据えて、市からの各種生活支援・保健医療・介護予防などの一体的な提供、地域で活動する多様な担い手に加え、元気な高齢者による共助のための体制整備の必要性から、関係機関と連携し、元気高齢者の活動支援と介護予防事業に力を注ぐと記載している。また、施策の展開の中では、介護予防事業の充実を掲げ、地域介護予防支援事業を実施すると記載している。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		南相馬市全体の状況把握 ・既存データの整理 ・地域資源整理 介護予防に資する行政及び関係機関実施の事業把握と住民運営の通いの場の状況把握 ・行政課題の整理	継続して各地域の状況把握する ・地域資源整理 ・関係機関実施の事業把握と住民運営のサロン等の状況把握	◎	
戦略策定		・めざす地域について担当者協議 ・モデル地区の選定 ・南相馬市復興総合計画及び高齢者総合計画に事業を位置づける	・出前講座を活用し介護予防の普及と併せてモデル地区の活動を紹介し普及啓発を図る。 ・既存のサロン代表者へ取組みを紹介し拡充支援の提案を行う。 ・新地域支援事業への移行に向けて要支援～元気高齢者まで継続的に取り組める事業として推進する。	◎	
関係者への働きかけ	《誰にどのような働きかけをしたか》 ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	関係課（部内会議等で説明）、関係機関（包括支援センターとの協議の場で説明）、関係職種にモデル事業について説明するとともに、住民説明の機会に参加してもらい情報共有をはかった。	モデル事業により立ち上げた住民運営の通いの場の事業の状況を説明するとともに、関係職種との連携により、事業展開をする。	○	
住民に対するアプローチ	《住民にどのようなアプローチをしたか》 ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	選定したモデル地区で、役員との協議をするとともに、健康講座として、講演会（住民説明会）と、運動体験を開催し、住民の取組（主体的）を促した。	・介護予防の必要性を多くの市民に啓蒙する ・立ちあげた地区の運営が継続できるよう支援 ・周知・広報：立ちあげた地区の活動のPR ・出前講座 ・住民説明会	○	

<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<p>モデル地区での運動を中心とした通い場「仲間健康サロン」を立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政区の役員との協議（担当課の保健師、作業療法士）2回 地区サポーターの養成講座 1回（予定） 立ち上げ前日リハーサル 1回（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区の継続 既存のサロンまたは、新規に2～3か所の立ち上げをする 	○	
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区として1か所立ち上げ（予定） 参加者数（20人程度予定） 大東でまっせ体操を実施（予定） 立ち上げ時の体力測定（予定） 			
<p>通いの場を支える体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 行政の役割、モデル地区の役割の明確化 サポーター養成 事業評価として体力測定等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> サポーター養成、継続支援 	○	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 		<ul style="list-style-type: none"> 予算の確保 人材の確保 	◎	<p>限られた予算人材のなかで、既存事業を新規事業のようにしていくか、効果的な事業実施にむけて整理していかなければならない。</p>

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

職員の意識の変化としては、二次予防事業として介護予防事業を実施してきたが、予算的にも、マンパワーについても現在事業の継続のみでは、高齢化による介護需要に対応できないとの意識となってきた。また、住民自身が高齢化社会に対して、自ら介護予防に資する活動の必要性を認識していることに気づかされた。モデル地区住民は、行政からの働きかけに賛同し、事業の必要性を理解し、協力しあって事業の立ち上げに積極的に動いている。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	介護予防活動については、生活不活発病予防として自己啓発にとどまっていたことから、自己啓発のみでなく、地域として介護予防活動の必要性について普及・啓発していくことが必要である。	モデル地区の状況について、広報等で紹介したり、出前講座で取り上げるなど、他地区の啓発をおこなう。	○	モデル地区の事業立上げ後半年以降		
住民主体のネットワークの形成	地域介護予防事業を展開していく中で、高齢者をとりまく課題、特に生活の視点で、必要な支援がみえ、その問題に対し住民同士互助活動や関係機関とのネットワーク形成につなげることも必要と思います。		△			
介護予防事業の評価	高齢者が多い社会になることが推測されますので、元気な高齢者（介護保険サービスを必要としない）の数値を評価指標とするが、事業参加者の評価として、体力や、日常生活活動の変化で評価する。		◎	モデル地区の事業立上げ後半年以降		
その他						